

GO FLY

新北島中学校
学年通信 No30
2020.06.17. 発行



街中で、ほぼ100%に近い人々がマスクをしています。再開されるドラマの収録現場では、「倍返し」の銀行マンも、「警視庁特命係」の2人組も、追い詰められる犯人も、銀行の上司も、外出時はマスクを忘れるわけにはいきません。もちろん、学校では先生も生徒もマスクは欠かせません。暑くなってきて、さらに熱気がこもるマスクははずしたくなりますが、いまはまだガマンですね。



マスクによってほぼ顔の半分が隠れてしまいます。極端な言い方をすれば、目しか見えていない状態です。でも、なんとなく相手の表情は読み取れます。おこっているのか、笑っているのか、悲しんでいるのか・・・わかります。それはどうしてでしょう。わたしたちは相手の目からたくさんの情報を得るのです。目を見るだけで、心のかたすみがわかるのです。「目は口ほどにものを言う」のです。目は、ことばで説明するのと同じように、相手に気持ちが伝わるものだということ。ことばに出さなくとも、目の表情で気持ちを相手に伝えることができるということ。そして、ことばでうまくごまかしても、目に本心が表れるということなのです。



記者会見の会場で手話通訳の方が活躍されているのを見ることがあると思います。困ったように眉をひそめたり、不安そうに口をとがらせたり、ぐっと目に力を込めたり・・・となりの記者会見が原稿やメモの退屈な棒読みでも、手話通訳者のみなさんはとても表情豊かに“話す”のです。会見の発言はそっちのけで思わず見とれてしまうことがあるほどです。

人類が「表情」によるコミュニケーションを獲得したのは、音声や言語による伝達よりもおそらくずっと昔のことだったと思います。だから、英語がまったくしゃべれなくても、外国人が喜んだりおこつたりしているのがわかるし、赤ちゃんも笑うのです。困った目、おどろいた目、沈んだ心の目、さまざまな目、それはまさに「口ほどにものを言う」のです。

と、ここまで書いて、相手の目を見ずにしゃべることがあることに気づきました。それは何か、電話です。電話は音声だけあって、相手の目を見ることができません。声の質や高低である程度のことはわかるのかもしれません、真意は「?」です。たとえば電話で「わかりました」と相手が言ったとしても、ほんとうのわかっているのか、それともしぶしぶ「わかりました」と言っているのか、微妙なところがわかりません。

顔の下半分をマスクで覆って、日常を取り戻す取り組みが少しづつ始まりました。相手の目を見て話を聞き、相手の目を見てしゃべりたいものです。